

CBC NEWS LETTER

Vol.6, No.1, Oct.2005



国立大学法人
小樽商科大学ビジネス創造センター

ニューズレター [Vol.6, No.1]

I N D E X

1. 「大学間の文理融合による連携協力に関する協定書」を札幌医科大学および北海道東海大学との間で調印する
2. 第1回地域共同研究センター情報交換会を開催
3. インタラクティブ・ビジネス・ワークショップを開催
4. 文部科学省委託研究「21世紀型産学官連携手法の構築」報告書を提出
5. CBC主要日誌
6. 投稿案内

1

「大学間の文理融合による連携協力に関する協定書」を、 本学と札幌医科大学および 北海道東海大学との間で調印する

中期計画における「③地域の公私立大学等との連携・支援に関する具体的方策」の年度計画の具体化を目指して、関係他大学との検討を進めてきました。商科系単科大学である本学には、理工学系の学部やそれらに由来する独自の研究シーズがないため、一方では経営系の教育研究資源がないものの理工学系の優れた研究シーズを有する近隣の他大学との「大学間連携」を実現し、大学の特質を融合して活かすオープン・イノベーション化を通じて、社会や産業界、地域への貢献を一層高めたいと考え、協議を続けてきました。今回は、年度計画に挙げている北海道東海大学に加え、札幌医科大学の2校との間において、本学との「文理融合型連携協力に関する大学間協定の締結」について合意が成立しました。

この合意を受け10月1日に、札幌サテライトにおいて調印式を執り行い、協定を締結して同日付で発効させました。連携協力に係る協定書は、内容的にはかなり包括的な協定内容ですので、具体的には箇々に関係二校が協議する場を設けながら検討を進めていきます。

本協定は、お互いが持っている知見や資源、持っていない知見や資源などを補い合うことにより、社会と大学の活性化に役立つ「人材育成や知の活用体制」を結実させることが目的です。連携協力により、それぞれの大学の役割・機能がシナジー効果を持つ枠組みを形成することができますので、先の目的の具体化が加速できるものと期待されます。



1

連携大学の紹介

札幌医科大学

昭和20年に北海道立女子医学専門学校として設立され、同25年に医学部医学科の単科大学として開学しています。現在は、医学部と保健医療学部及び大学院を中心に、医学・医療の研究と地域医療への貢献、ならびに国際的な研究者の育成などを使命にし、幾多の優れた研究成果と人材の輩出で貢献しています。平成19年度からの公立大学法人化への移行、先立つ平成18年度には「(仮称)産学連携センター」の開設などが準備されつつあり、産学連携体制の整備・充実を図ることをしています。



北海道東海大学

昭和47年に旭川市に開設した東海大学工芸短期大学を前身として昭和52年に開学しており、神奈川県に本部を置く東海大学の一翼を担う大学です。現在は札幌キャンパスに国際文化学部と工学部、旭川キャンパスには芸術工学部の計3学部で構成されています。札幌には、「地域連携研究センター」が開設されており、当センターをフロントに産学官連携事業や知的財産権の出願の促進、大学発ベンチャー企業の設立、地域産業クラスター等の支援などに取り組まれています。



2

第1回地域共同研究センター情報交換会を開催



9月1日(木)に第1回地域共同研究センター定期情報交換会をビジネス創造センター(CBC)において開催しました。

この交換会は、CBCなど社会科学系の地域共同研究センターが行う産学官連携や社会貢献の諸活動についての成果や課題を話し合い、それぞれのセンター活動を更に強化・向上させるために、CBCの提案で今年度から発足(年1回開催)させたものです。

コアになる参加センターは、CBCのほか福島大学地域創造支援センター(CERA)、滋賀大学の産業共同研究センター(JRC)及び地域連携センター(CCP)ですが、今回は特別参加として、岩手大学地域連携推進センター(CERECO)、本学と文理融合型連携の包括協定を10月1日に締結した札幌医科大学(産学連携センター 仮称・

準備中)および北海道東海大学地域連携研究センターの3校からも出席があり、計6大学が集いました。

本学以外の5大学からの参加者は13名で、本学からは秋山学長、山本副学長、CBCスタッフ教員8名、CBC学外協力スタッフ2名など14名が参加し、全参加者は計27名でした。

交換会では、秋山学長、下川CBCセンター長から歓迎の挨拶があった後、午前中は、各校の活動状況の報告と抱える問題・課題等が報告され、午後はその報告をふまえて「学内協力および参加体制構築上の現状とポイント等」などのテーマ別に意見交換が行われるなど、1日を通して、充実した内容となりました。

なお、次回(来年度)の開催当番校は福島大学となりました。

3

インタラクティブ・ビジネス・ワークショップを開催

ビジネス創造センター(CBC)では、第一線のビジネスパーソンをオムニバス形式で招き、今日的な事例をもとにケースメソッドのディスカッションを行う「インタラクティブ・ビジネス・ワークショップ」を不定期で開催しています。今回は、環境エネルギー分野で起業し、東証マザーズ上場を果たした日本風力開発株式会社代表取締役社長塚脇正幸氏をお招きし、ご自身の起業をケースとしてのワークショップ



を3月24日(木)に開催しました。日本風力開発株式会社は、日本で珍しい独立系のエネルギー・インフラ型のベンチャー企業で、日本各地に風力発電所を開発・運営しています。塚脇正幸氏は、エネルギー政策にも精通する異色の経営者です。

今回のワークショップには、27名の参加者があり、あずさ監査法人札幌事務所(JRタワーオフィスプラザさっぽろ 20階)のセミナー室をお借りして実施しました。

4

文部科学省委託研究 「21世紀型産学官連携手法の構築」報告書を提出

文部科学省の知的財産本部整備事業の一環として同省よりビジネス創造センター(CBC)に委託され、瀬戸篤教授(本学大学院商学研究科アントレプレナーシップ専攻(ビジネススクール)、CBCフェロー、前CBC副センター長)が研究責任者となり調査研究が行われました。本調査研究の成果として、次の2編の報告書が文部科学省に提出されました。

- 1.「大学発ベンチャーマニュアルー創設から廃止までー」(平成16年3月)
- 2.「大学発知財の商業化戦略」(平成17年3月)

2は、CBCホームページ(<http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/>)の“刊行物一覧”よりご覧いただけます。

CBC運営委員会		主任会議
3月23日(水)	議題: 1. 平成17年度CBC執行部人事について 2. CBCフェロー制度の創設について 3. 平成17年度学外協力スタッフ委嘱対象者について 3. 「北洋銀行企業再生寄附研究部門」における関連情報の取扱いに関する申合せ(案)について 5. その他 報告: 7件	3月10日(木)
4月25日(月)	審議: 1. CBCフェロー制度創設に伴うフェローの委嘱について 2. 平成17年度CBC運営費の予算執行計画等について 3. CBCホームページの更新について 報告: 3件	4月13日(水)
5月16日(月)	審議: なし 報告: 6件	5月 9日(月)
5月27日(金)	審議(持ち回り): 平成18年度概算要求書について	
6月20日(月)	審議: なし 報告: 5件	6月 6日(月)
7月25日(月)	審議: 1. 札幌医科大学の「リサーチ・アドバイ業務委託依頼」への対応について 2. CBCビジネス相談機能の強化策について 3. その他 報告: 7件	7月 4日(月)
8月 5日(金)	審議(持ち回り): 平成17年度CBC執行部(主任)人事について	8月 1日(月)
9月 6日(火)	審議(持ち回り): 1. 「小樽商科大学と札幌医科大学の文理融合による連携協力に関する協定書(案)」について 2. 「小樽商科大学と北海道東海大学の文理融合による連携協力に関する協定書(案)」について 3. 「小樽商科大学ビジネス創造センター規程」及び「小樽商科大学ビジネス創造センター規程」の一部改正について	
		10月 3日(月)

投稿案内

ニュースレターはCBCに関する情報をタイムリーに開示するだけでなく、CBC関係者相互の情報交換の場でもあります。CBC関係各位の積極的な投稿をお待ちしています。

投稿、問い合わせはEメールにてお願いします。投稿は随時受け付けておりますが、投稿原稿の採否、掲載号の決定はCBC情報資料部に御一任ください。

○ 投稿先 小樽商科大学ビジネス創造センター情報資料部 (奥田和重)

Eメール: okuda@res.otaru-uc.ac.jp

編集後記

このたび小樽商科大学ビジネス創造センター(CBC)のニュースレターVol.6, No.1を発行することができました。これも関係各機関・各位のご協力の賜であります。本号では、10月1日に締結しました「大学間の文理融合による連携協力に関する協定書」を取り上げました。この連携協定は国立大学、公立大学、私立大学といった設置形態の枠組みを超えたもので、全国的にも珍しく道内でははじめての取り組みです。今回の協定締結により大学が持つ研究シーズが社会還元され、それによる北海道経済の活性化が期待されています。より充実したニュースレターにするために、今後ともみなさまのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

(情報資料部)

国立大学法人

小樽商科大学ビジネス創造センター (CBC)

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

事務室 TEL 0134-27-5290

FAX 0134-27-5293

メールアドレス cbcjimu@office.otaru-uc.ac.jp

ホームページ <http://www.otaru-uc.ac.jp/cbc/>